

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成） タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	高知大学
事 業 名	先端医療学研究を軸に展開する、メディカルデータマイニングを活用可能な研究医養成プログラム
事 業 責 任 者	高知大学医学部長 井上 啓史
事 業 の 概 要	
本事業では、次の 3 点の推進及び統括タスクフォースにより、高度な臨床・研究能力を有する医師養成を図る。 ・医学情報センターが長年運用・蓄積してきた 40 年間 38 万人分の仮名化データベース RYOMA2 を、効率的に電子化医療情報から臨床的知見や予測を導き出せるインターフェースのシステムへと発展（RYOMA3 へ）。 ・臨床実習生等の指導と臨床研究に重点を置く臨床指導医（先端医療フェロー）を配置し、「臨床指導医—専攻医—研修医—臨床実習生」の屋根瓦式指導体制の構築により、医師の働き方改革とともに教育・研究体制を強化。 ・次世代医療創造センターの研究支援人材の増員、高度化による支援体制強化。 本事業では先端医療学推進センター（先端医工学部門：光線医療技術等、再生医療部門：臍帯血の臨床研究、再生医療等製品の開発推進等、情報医療部門：心筋症ゲノムコホート等）を対象とし、事業終了後において他診療科に展開する。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○次世代医療創造センターの研究支援人材の増員が期待できる。 ○光線医療法で 2020 年以降 21 編の論文投稿があり、また肥大型心筋症のゲノムコホートを有する。 ○すでに RYOMA3 の開発実装化、学内予算化されている CRO の協力があることは優れている。 ○独自データベースの UI の向上を目指し、若手研究者にとっての利便性向上を図り、現在のデータベースをアップグレードすることで、今後の研究活動にも良い影響があると考える。 ○公衆衛生修士課程などの様々な分野との連携は魅力的である。 ○内部人材と外部人材の混成チーム編成は優れている。 ○必須指標に加え任意指標が設定され、達成時期も具体的に記述されており優れている。 ○先端医療フェローとして臨床と研究にコミットさせた後、当該人材を雇用する計画は良い。 ○国際共同研究、医工連携、国内初の臨床研究実績がすでにあり、その踏襲は期待できる。 ○医療情報の利用として、RYOMA3 のクラウド環境で、AI を用いた診断補助ツールの開発や、SaMD の RWD を用いた定期的評価は期待できる。 ○学内及び共同研究者とのデータ共有は良い取組で、事業成果の普及方法も具体的で優れている。 ○タスクフォースチームの設置・体制に関する具体的記述があり、期待できる。 ●内科・外科、基礎・臨床へは未だ展開されていないため、今後の工夫が必要である。 ●外部企業を含めたタスクシフトは優れているが、先端医療フェローが却って負担を増やすリスクがあり、負担を伴わない工夫に関する記載についても検討することが望ましい。 ●国外レベルへの取組普及への具体的記述についても検討することが望ましい。 ●若手研究者の卵がタスクシフト先になるが、そちらの負担について対策することが望ましい。 ●研究者が自ら行うべきタスクをどのように選定するのが重要である。 ●最終年度に研究支援操作説明会を開催する必然性が不明。	